



## 世界経済における需要と供給、それと今日のインフレへの考察

令和 7 年 12 月 3 日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

需要に対して供給の過剰性が存在する中、世界におけるインフレが与えられることは、実体経済が、金融経済におけるその資本の変化において引き起こされる現実であると考察できる。

これらは、為替と金利、貿易と新たな技術革新において、経済の構造の転換を与えるものであると考えることができるのである。

これらは巨大資本や企業における資本力の拡大における、新たな現実の模索と新たな富の希求という現実が引き起こすインフレスパイラルという判断を得ることができる。

これらは、巨大資本においては、インフレは、一切その影響を得ないのである。

これらは資本力と、実体経済と新たな技術は、今日経済を説明するうえで、唯一その判断を有する現実であるならば、今日のインフレへの理解を説明することは可能である。

これらはグローバル化とともに、経済における統一性が存在し、世界のすべての国家における現実はその共有性を有するのである。これらは明らかにグローバリゼーションが今日の現実であることの証明である。

需要と供給における消費者価格の制定は正しい理解であるため、今日のインフレは、金融経済が与える現実であると理解できるのである。

また企業マインドの変化において、それらを理解することもできるのである。それらは新たな現実への参加に対して、巨大な資本力が求められるためである。

これらとともに各国家における財政環境の悪化なども大きく考慮できる。危機に対して資本を守ることは、企業における選択であるためである。

しかしこれら現実が与えたものは、社会の完全な 2 分化である。未来という新たな可能性へ参加するものとそれができないものの相違性である。